

## オスプレイ強行配備と米軍機低空飛行訓練に 全国から反対のうねりを

オスプレイの本土での低空飛行訓練が始まった。配備にあたっての「環境レビュー」の公表も異例であったが、本土での低空飛行訓練では初めて事前通告をしてきた。2月28日に低空飛行訓練では初めて事前通告をしてきた。3月6日から8日、3機が岩国基地を拠点に九州のイエロールートで行うというものだ。さらに前日になって、イエロールートから四国から紀伊半島につながるオレンジルートに変更も通告してきた。理由がルート下にある陸上自衛隊の日出生台演習場で迫撃砲による実弾演習訓練を行うというものだった。この変更は米軍機の低空飛行訓練が全く米軍の都合で行われていることを示すのだろう。米軍は訓練コース上の送電線などの障害物は事前に調査するというが、山間部での工事資材搬入のヘリや緊急出動の消防などのヘリなどにはこれまで全く事前の情報は知らされず事故の可能性も指摘され続けた。

さらに3月19日から2回目となる訓練のために5機、前回と同様に四国オレンジルートを経由してきたようだが、今回は防衛省に岩国市に対して「移動する」とだけ伝えてきた。「前回は初めてのケース」だと言い、今後、「フライトプランの開示で米側との信頼関係を損なうので明らかにしない」と国会で答弁している。

今回の低空飛行訓練は実質的にそれぞれ限定的で、「低空飛行訓練」とは言いえないレベルで行っている可能性が高く、地ならしのようだ。かなり気を使い、様子見に終始している。しかし、沖縄での訓練の様子は違う。「可能な限り」とした日米合意は強行配備の10月1日から反故にされ、配備後2か月間の沖縄県の目視調査でも517件中、318件が合意違反の飛行が確認されています。これに対して、日本政府は米軍側の発表の鵜呑みに終始し「合意は守られている」と答えるありさまだ。配備にあたって「米国政府に配備計画の修正を求める立場にない」という態度に終始しており、主権国家と

は言いえない状況を一方で沖縄に押し付けている。

そもそもオスプレイ配備にあたって米国内でも反対の声は根強い。低空飛行訓練に対しても猛烈な反対運動で延期を余儀なくされている現状だ。しかし、自由に訓練が出来るのが日本というわけだ。現在も日本列島全体に広がる8つの低空飛行訓練コースや訓練エリアでは戦闘機などによる激しい低空飛行訓練が行われている。それは訓練下で生活している人々のことを顧みず、しかも民間施設を含めた建物を攻撃目標として行われている。この現状に苦しむ住民から悲痛な訴えが出ている。オスプレイ強行配備を機に沖縄の叫びと低空飛行に苦しむ住民の訴え、いずれも「日米安保」の犠牲を強いられている声を集約し、運動につなげていかなければならない。各地からあげられる「オスプレイ配備と低空飛行訓練中止を求める決議」、そして沖縄以外からも「日米地位協定改定を求める決議」も出てきている。

岩国基地を起点に中国地方に広がる低空飛行訓練コースのブラウンルートとエリア567と呼ばれる訓練空域、さらに九州や四国を結ぶ運動として「オスプレイ配備と米軍機低空飛行訓練を許さない市民ネットワーク」の結成を予定している。低空飛行で深刻な影響が出ている広島県三次市で5月12日に結成集会を行うことを決めた。市民ネットワークの呼びかけに保守、革新問わず反応が来ている。それだけこの問題が地域では深刻な問題になっているからだ。日米地位協定があるから日本の法律に縛られることなく自由に訓練を行い、また、訓練に伴う損害は日本政府が補償している現状の中、その大半の負担を担う沖縄の反対運動に連帯し、終わらない戦後、米軍支配に全国から反基地、反安保の闘いを巻き起こそう。

(新田秀樹／ピースリンク広島・呉・岩国世話人)

安倍政権が誕生してからほとんどニュースも見えないので、人に文句を言ってる場合じゃない。でも、学生に議論をふって仰天することはいっぱいある。携帯に配信されてくるYahooニュースなんかで唯一世界に開かれた窓になっている彼女たちは、「中日関係が緊張している」ことはよく知っている。そこでその歴史的な背景を解説する雑誌記事を読ませると、「そんな昔のことをいまだに恨みに思うのが理解できない」、「イスラ

# 憲法

ム圏テロ対策で軍隊を派遣したいだけなのに、中国がどうこう言うのは自意識過剰」、「前だって日本は攻撃されて仕方なく開戦したのだから、中国が攻撃しなければいいだけの話」……。もう小林よしのりの的なデマゴーグもいらない感じ。この人たちはエキセントリックな少数派なのだ、と思いたい。だとしても、彼女たちが選挙権をすでに持つ国立大学の学生たちで、ここへ向けて改憲論議が始まるのが憂鬱で仕方ない。(あ)

## 東日本大震災・福島原発事故2年目の 名古屋での取り組み

東日本大震災とそれに続く、福島第1原発事故から2年目の3月、名古屋でも様々な取り組みが行われました。3月3日には「明日につなげる大集会」が、5000人が参加して実行委員会の主催で行われました。山本太郎さん、増山麗奈さん、アーサービナーさんら多彩なゲストの発言のほか、「食品の放射能汚染を考える」や「市民が決めるエネルギー」などでのブースで、福島の放射能汚染の現状や脱原発に向けての展示がありました。集会終了後、参加者は二手に分かれてデモを行いました。

3月9日には、不戦ネットも参加する「未来につなげる・東海ネット」の主催で、「福島の今とこれから 終わらな放射能被害」をテーマに集会を持ちました。ゲストは、文部科学省が2011年10月に小・中・高生向けに出した放射線副読本が原発事故に触れないで作成したことに対し、独自の副読本を作成した福島大学の後藤忍准教授と、飯館村で自然農園「なな色の空」を経営していて、原発事故により現在は三重県伊賀市で新たな生活基盤を作りつつある、村上真平さんにお話をいただきました。後藤さんは、原発リスクを明確に示しているドイツの副読本と比較しながら、偏った教育が原発リスクに対する国民の判断力を低下させた」と批判、公平な判断ができる教育と情報が必要と訴えました。村上さんは、原発事故当時の避難の際の切迫した状況と、原発が自然と共存をしないことを力説されました。

3月11日の当日は、「原発なくそう！3・11キャンドルアクション」を行いました。夕方6時半より、名古屋栄の噴水前広場で、約200本の竹やガラス瓶で作ったキャンドルで、「NO NUKES」と作り、福島から夫と5人の子どもと共に非難をしている岡本さん、チェルノブイリ救援中部から、数年間ウクライナに駐在員として赴き、「菜の花プロジェクト」などの支援活動が続けて来られ、帰国された竹内さんにもスピーチをしていただきました。岡本さんは、生活が軌道に乗るまでの大変さとともに、非難している人たちへの励ましと支援を訴えました。竹内さんからは福島でもウクライナでの経験を生かしていきたいと発言がありました。集会後、ローソクを手に中電前を通りコースでも行い、再稼働反対と脱原発を訴えました。

昨年末、政権に返り咲いた自民党安倍内閣は、原発の存続を明確にしています。福島原発震災で15万人もの人たちが故郷を追われ避難生活を余儀なくされ、いまだ放射線の高い地域で日々不安を持ちながら生活をせざるを得ない人がいるにも関わらず原発維持をしようとする流れを止めなくてはなりません。この2年間、脱原発の運動には既存の運動体のほかにも若者や女性など幅広い層の人たちが運動に加わりました。運動の継続とつながりを大事にしながら続けていきたい。  
(山本みはぎ／不戦へのネットワーク)

## 原発なくそう3・11アクション in 静岡

東京での首相官邸前・国会前金曜日アクションにならって、静岡市青葉公園で始まった行動が3月8日で35回目となった。この日も午後6時半頃から市民が集まりだし、ギター、フルートやタンバリンを交えて替え歌リレーをしながら、市民への訴えとコールをはさんで約1時間の行動。この日は40人の参加だった。金曜行動は参加人数は多くないものの、回を重ねることで人のつながりが深まり、「3・11メモリアルアクション」の企画が生まれ、実行委員会の発足となった。こうした行動は県内の幾つかの街でも取り組まれた。

静岡市での3・10アクションは午前と午後の2部構成。午前10時から始まった1部のオープニングは市内の子どもたちを中心とする10人の力強い太鼓の演奏とコーラスグループ「なかま」の反原発ソングなどの合唱。集会では実行委員会を代表して「原発とめる会」の小林さんが「3・11を前に安倍政権は世論に挑戦するかのように再稼働に動き出した。これは福島の人たち、被災した人たちを見殺しにするものだ。全国各地で積み上げられてきた共同の取り組みをいっそう広げよう」「私たちは浜岡原発を永久停止させ、完全廃炉に追い込もう」と訴えた。

その後1分間スピーチでは、4人の静岡市議、女性グループや青年たち、浜岡原発反対運動や労働組合代表、菊川の市民グループ、医療従事者、広島県の被爆者支援をしている人びととともに、台湾から来日した5人の青年が「日本企業によって原発が輸出されようとしている。力を合わせて阻止しよう」と訴え、ひときわ大きな共感を集めた。1分間スピーチで発言した人の数は22人に達した。

集会アピールを確認した後パレードに出発。市内パレードでは、オープニングで太鼓を叩いた子どもたちによる「おみこし」とドラム隊を先頭に500人が風船やノボリを手に、思い思いのプラカードやコスプレでにぎやかに行進。途中でデモに飛び入り参加した若者もいた。

第2部は12時半からのライブステージ。いくぶん参加者は減ったものの、プロのアーティストや、アマチュアバンドが午後4時半まで演奏し、意義深い1日行動となった。

(桜井建男／静岡)



——我が子よ、お前には胸を張って「ふるさと福島です」と名乗らせたい。——東京電力福島第1原発事故から2年になる3月9日、福島を忘れず、原発のない未来をめざして、みんなでデモしようと京都市東山区の円山野外音楽堂を中心に市民集会「バイバイ原発3・9きょうと」をひらき3500人が参加。集会とデモで大飯原発の運転をただちに中止させることと原発のない社会をめざすことを、京都府民、市民に訴えた。

同集会は、反戦・反貧困・反差別共同行動(きょうと)代表世話人・仲尾宏さんをはじめ各界各層からの個人よびかけで同集会実を組織し、昨年の「バイバイ原発3・10きょうと」に続いてひらいたもの。今年は呼びかけ人を17人に増やし、115人の個人、113団体の賛同(3/7現在)で開催。政党も共産、公明、社民、新社会、緑などが参加、メッセージを寄せた。また南ドイツのネッカーヴェストハイム脱原発ネットワークからの「福島を事故を忘れません。日本とドイツで力をあわせて原子力のない世界をつくりましょう」とドイツの脱原発集会からのメッセージをはじめ東京、福井、大阪、滋賀など日本各地からの連帯メッセージのもとに集会をおこなった。

集会では、福島市から京都市に避難中の菅野千景さんが、「親子、夫婦、じいちゃん、ばあちゃん、お友達と離れて暮らす苦しさを自分のことと考えて」と呼びかけ、「安全かどうか調べるまでもなく、福島を事故からなぜ学ぼうとしないのか、不思議でならない。核があること自体が危ないのに」と脱原

発を訴えた。

また、講演した人材コンサルタントの辛淑玉さんは、「私は3・11以降2年間、被災地の方に足を運んだ。なぜなら被災3県の中に約9万人の外国籍住民がいるから。そして分かった死亡者は23人」とのべ、「子のためになぜ避難しないのかと責められ、避難すれば“逃げた”と責められる母、放置された在日外国人、心を込めて作ったリンゴを売れば健康被害の加害者とされてしまう農業関係者」(朝日新聞から)など弱者の視点で話し、最後に、「原発は人を殺します。だから“つくるな・つくらせるな・稼働させるな”です。そして、今いる被害者とともに生きていく社会をつくること。“福島”というのは近代の日本が生んだ新しい差別。その福島差別は、私たちがもう無くなったと思っていた広島・長崎の被曝2世・3世の人たちへの差別です。そして今なお助けられない水俣病差別と一緒に。近代の差別です。差別があるからこそ原発がつくられた。その差別は沖縄の差別とも一緒。であるならば、この京都1200年の歴史、その1200年の歴史は差別の歴史でもあった。だからこそ、新しい時代を創るということは、被災した人、そして叩かれた人、弱者を差別しないで共に生きていく社会をつくること。これが原発ムラに対抗できる私たちの生き方、私の生き方だと思う」と講演した。

(寺田道男／反戦・反貧困・反差別共同行動  
(きょうと)事務局長)

福島原発事故が起こった2011年春、福岡では福島からの避難者たちの『ママは原発いません』福岡パレード』が呼びかけた集会とデモが4回行われた。「福島での苦しみを福岡の人に味わってほしくない、九電玄海原発も危険だから運転をとめよう」と沿道の市民に声をかけた。5月23日には福岡市民が結成した『さよなら原発』福岡の人』と共催で集会と市内デモが行われた。「さよなら原発!!」と描かれた横断幕が先頭を進んだそのデモのころから街頭で、「原発いらない」、「電気は足りてる」、「金より命」と沿道の市民に話しかけられ始めた。

その直前の5月8日に、「反原発のサウンド・デモ」が行われた。人々が自らを解放し、自由に表現していくデモだが、まさしく反原発の「動く集会」が路上で実現されていた。このサウンド・デモについて、警察は異常な警戒態勢をとり、デモ出発直前になって、トラックの出発を阻み『「トラックに幌をかぶせる』との許可条件違反だ」、「荷台に人が乗ってはいけない」とサウンド・デモの意義を摘む暴挙にでた。福岡県公安委員会への行政不服申し立てを経て、警察の道路使用許可条件の撤回の行政訴訟、表現の自由の権利侵害に対する国家賠償請求訴訟を福岡地裁に併合提訴し、今係属中だ。来る4月15日(10時30分)の裁判期日では、証人採用の審議が行われる。私たち原告の主張の根底には「判例は、デモは許可制ではなく届出制だと示している」という理解がある。因みに、福岡県には公安条例は制定されていない。道路使用

の許可条件で上位規範である憲法が付与する「反原発」という表現の自由を奪ってはならないのだ。

2012年になって、国は、国と東電の責任逃れとなる、震災がれき広域処理を始め、福岡県では、焼却・埋め立て施設を有する地方自治体と事業組合に、受け入れ方の打診が繰り返された。しかし、震災がれきに付着した放射性物質、有害化学物質、重金属が焼却と埋め立てによって、大気、大地、海洋に拡散され、環境を壊し人の健康を苛むことになる。福岡・九州が受け入れるべきは震災がれきではなく、避難者だ。大事なことは安全な食べ物を生産し、被災地に送り届けることだ。その福岡・九州を放射能被災地にしないために、震災がれきを持ち込ませないことだ。しかし、北九州市は昨年5月、逮捕者を出させて強行した試験焼却を経て、1500キロメートルも離れた石巻市から約23000トンのがれきを受け入れ、市設3清掃工場で焼却し、響灘に埋め立てた。4月以降の受け入れは中止された。これは北九州市と近隣の持ち込み禁止運動の高まりの成果だ。3月21日から10日間の予定で3清掃工場の近くで「降下ばいじん調査」が始まった。

1月、新門司工場で焼却灰に埋もれて清掃作業従事者が死亡(発表)する事故が起きた。震災がれきと闘うことは、被曝労働根絶と九電玄海原発事故で心配される放射能被曝阻止を求めることだ。北九州市で燃やしてはならない震災がれきのがれきは、宮城県でも、どこででも、燃やしてはならない。

(脇 義重／がれき問題を考える会 福岡)

## 3・10福島原発事故2周年 柏崎刈羽原発差止訴訟1周年集会

新潟では、3月10日、「福島原発事故2周年 柏崎刈羽原発差止訴訟1周年集会」が柏崎市で開催されました。柏崎刈羽原発の運転差止訴訟を取り組む弁護団・市民の会などの主催で、500名の会場に定員を超える580名の参加がありました。

集会では、まず、運転差止訴訟の原告のひとりで郡山在住の菅野正志さんが報告。菅野さんの妻子はいわゆる「母子避難」で新潟市に住み、御自身は郡山で仕事を続けながら週末新潟と往復する二重生活を続けています。

事故直後、不安なまま情報の無い中で翻弄され続けた状況、「娘たちを被曝させてしまった」という痛苦な想いを話しました。「原発事故を起こすまでは、7人家族で暮らしていた。事故のため、子どもたちを避難させるしかなく、育ち盛りの可愛い娘と暮らす当たり前の事ができなくなってしまった」「娘は自分の母に『なぜお父さんと一緒に暮らせないの。私が悪いことをしたの?』と尋ねた」など、二重生活の苦しさや深刻さ切々と語る報告を、参加者は皆涙ながらに聞きました。菅野さんは最後に「お世話になった新潟の人たちにこんな想いはさせたくない」と強く訴えました。

その後、環境総合研究所の鷹取敦さんが、同研究所の作成した原発事故シミュレーションソフト「Super Air 3D/NPP」を用い、柏崎刈羽原発事故のシミュレーションをおこないました。これは規制庁のシミュレーションと異なり、地形の3次元データを考慮したもので、さらに任意の地点の積

算線量も表示できるものです。規制庁と同様の条件を付与してシミュレーションすると、UPZとされる30km圏付近の事故直後の線量評価では規制庁の計算結果と大きな差は出ませんでした。30kmを超えた遠い地点でも、残留放射能により浴びる「積算線量」が個人の被曝限度を超えることが示されました。特に小児の甲状腺被曝の想定では、100km圏でも対策が必要になる結果です。「事故後1週間の被曝量」の計算結果で想定を組み立て、「30km」で機械的に「避難」「避難受入」を線引きする計画は実態に即していないのです。と同時に、避難した後に菅野さんたちが直面しているような、経済的・精神的な苦痛や被害などを考えれば、どんなに完璧な緊急避難計画を作ったとしても、それが私たちに安心安全を保証するものにはならない、ということをおたためて確信することもできました。

さらに続いて、新潟県の「原子力発電所の安全管理に関する技術委員会」の委員でもある立石雅昭・新潟大学名誉教授が柏崎刈羽原発敷地の下にある断層について解説、全て活断層であると指摘し、柏崎刈羽原発の地盤の脆弱性について参加者は認識を深めました。

その後柏崎市内をデモ行進。市民グループ、労働組合、社民党や共産党系の団体も多数参加するにぎやかな行進となりました。

(中山均／新潟市議、柏崎刈羽原発運転差止市民の会事務局)

### ◇原発を読む◇『どうする? 放射能ごみ』

西尾漠 著 緑風出版刊 1700円+税

「プロブレムQ&A」シリーズ2012年増補改訂新版である、西尾漠の『どうする? 放射能ごみ——実は暮らしに直結する恐怖』を読み終えて、「原発はトイレなきマンション」であるというたとえ話による批判について、あらためて考えてみた。西尾は本書で実に具体的に、原発が動くことで生み出され続けてきた様々な「放射能ごみ」が、もはやどういふもならない事態に、人びとの「暮らし」を追い込んでいく状況について示し、結論的にこう述べている。

「原発を運転すると、使用済み燃料というごみが生まれるから、再処理工場がつくられます。再処理をして燃え残りのウランとプルトニウムを取り出しますが、これは使いみちがなく、けっきょくごみとなります。ウランとプルトニウムを取り出した残りが高放射性廃棄物です。／プルトニウムというごみを生み出すから、そのごみを燃やすための燃料加工工場や高速増殖炉などが必要になります。原発の運転にとmなって、またそのために必要な核燃料サイクルにとmなって、大量の放射能ごみが生まれますから、その処理施設が必要になります。放射性廃棄物を処理したり管理したりする工程からも、また新たな放射性廃棄物が生まれます。そして、原発も、核燃料サイクルの諸施設も、廃棄物処理施設も、やがてそれ自身が巨大な放射能のごみのかたまりになります。／まさにごみがごみを生む原子力開発と言えないでしょうか。しかしそのごみは、消すことも捨てることもできないごみなの

です。捨てた放射能は、そのまま環境に残るのでから。そして、そのはじめから終わりまで、国内外の多くの人々の犠牲を必然とするごみです」。

この「放射能ごみ」は、人びとをジワジワと死に至らせる猛毒であり、その毒性は何世代にわたっても消えない恐ろしいものだ。だから私たちはトイレに流されるべき「クソとションベン」とは共生できるが、「放射能」とはできない。その意味で「トイレなきマンション」というたとえ話は、必然的に生まれる「汚物」ということで考えれば、たくみは比喩といえるかもしれないが、「汚物」の内容が決定的に違う。むしろ、そう遠くない時間にセットされた時限爆弾つきマンションともいふべきもの（もちろん、マンションがまるごと破壊されるレベルですすむようなレベルの被害ではないので、これもあまりうまくない）。

その点とはともかく、その部屋が立派で美しいとかいう目先のことで、マンションに入居希望する「自爆志願者」たちを説得するための具体的な素材が、この西尾の本にはいっぱい詰め込まれていることだけは確かである。

「自爆」を回避し、「将来の世代が原子力にも化石燃料にも依存せずに豊かに生活できるような社会のしくみをつくること」を呼びかける運動のために、本書の活用を。

(天野恵一／事務局)



# 反改憲ニュースクリップ

2013年3月5日～3月20日

## 安倍首相が国連集団安保の 参加に意欲

【3月5日】〈保守系議連〉自民党や日本維新の会などの保守系議員による超党派議連「創生『日本』」が政権交代後初の総会を国会内で開き、運動方針に『憲法改正』に向けた政治の流れ」を強めるとの項目を追加。会員数は120人超。〈96条〉公明党の山口那津男代表が、96条改憲について「今、是か非かという議論をするには少し熟度が足りない」と発言。

【3月6日】〈96条〉公明党の石井啓一政調会長が96条改憲について、「次に（憲法の）何を改正するのかセットで示さないと、国民は不安に思うのではないかと述べる。

【3月7日】〈96条〉民主、維新、みんなの党の有志議員が「憲法96条研究会」の発起人会合を国会内で開く。研究会のメンバーは野党議員に限定する。他方、休眠状態にあった自民、民主、維新、みんななど超党派の「憲法96条改正を目指す議員連盟」（代表・古屋圭司国家公安委員長）の幹部が都内で会合を開き、月内に活動を再開させることを決定。同日、維新の橋下徹共同代表は「民主党は96条を改正するかどうかで、ビシッと分かれた方がいい」と発言。〈衆院憲法審〉衆院憲法審査会が幹事懇談会を開き、改憲手続法の付則に定められた成人年齢の引き下げなどの協議に入る。自民党は、成人年齢の引き下げは改憲の国民投票に限り、その他の引き下げは結論を当面先送りすることを提案。〈民主党〉民主党の前原誠司元代表が読売新聞のインタビューに答え、「参院選までの残り5か月間で、民主党は憲法改正の論点をしっかりまとめるべき」と発言。〈主権回復式典〉安倍首相が、サンフランシスコ講和条約の発効（1952年）を記念する「主権回復式典」の開催を今年4月28日に検討していることを衆院予算委で明らかに。

【3月9日】〈集団安全保障〉安倍晋三首相が、将来的に憲法9条を改正し国連の「集団安全保障」に参加することに意欲を示す発言。BS朝日の番組で。〈9条〉民主党の海江田万里代表が「憲法9条は変えてはいけない。平和主義などは守っていかうと党綱領にも書かれている」と述べる。

【3月10日】〈集団安全保障〉公明党の山口代表が、国連の集団安全保障に関する前日の安倍首相の発言について、「政府には憲法順守義務がある。一国会議員として論点を提示した」と牽制。

【3月11日】〈辺野古〉辺野古の新基地建設に向けて沖縄防衛局が名護漁協に提出した埋め立て同意申請に同意することを同漁協が決定。

【3月12日】〈民主党〉民主党憲法調査会が衆院選後初めてとなる総会を国会内で開き、会長に前衆院憲法審査会長の大本昌宏代表代行を選出。96条改正の是非などを議題としていく方針を確認した。

【3月13日】〈参院憲法審〉参院憲法審査会が安倍内閣発足後初めての審査を行い、二院制の在り方を議論。維新とみんなが一院制を主張するが、自民、公明、民主、その他の野党からは慎重論が相次ぐ。

【3月14日】〈衆院憲法審〉衆院憲法審査会が安倍内閣発足後初めての審査を行い、天皇と戦争放棄について議論。9条について、自民、維新、みんなが改正を求める一方、公明、共産は反対。民主と「生活の党」は立場を明確にできなかった。天皇については、自民、維新、みんなが、天皇を元首と明記し、「国旗は日章旗、国歌は君が代」と定めるよう主張。公明、民主、生活、共産は改正は不要とする。〈成年後見制度〉成年後見人が付くと選挙権を失う公職選挙法の規定は法の下での平等を保障した憲法に反するとして、ダウン症の知的障害者が選挙権があることの確認を国に求めた訴訟で、東京地裁が違憲判決。

【3月15日】〈96条〉民主、維新、みんな3党による超党派議連「憲法96条研究会」の設立に向け、有志議員による勉強会の初会合が国会内で開かれ、衆参両院の21議員が出席。〈国旗国歌〉大阪府教育委員会が、昨春の入学式で国歌斉唱時に起立せずに戒告処分を受けた府立高の教諭を再任用しなかったことが判明。府教委は、教諭に提出を求めた「今後職務命令に従う」との確認文書の提出拒否が理由とした。

【3月16日】〈核保有〉岸信介政権下の1958年に外務省内で「防衛用兵器」として核兵器を保有する選択肢が議論されていたことが、秘密指定を解除された米公文書から判明。〈辺野古〉沖縄県宜野座、金武、石川の3漁協が、「辺野古地先海域の米軍専用飛行場建設に反対する漁民大会」を開催。

【3月17日】〈民主党〉民主党の海江田代表が、自民が昨年まとめた憲法改正案について「大きな勘違いがある。前近代に戻る考え方だ」と批判。結社の自由の保障に、反社会的活動をしないなどの条件を付けたことが念頭に。〈北朝鮮〉北朝鮮・朝鮮労働党の機関紙『労働新聞』が、「米国が核戦争の導火線に火をつければ、ただちに侵略者らの本拠地に核の先制打撃権を行使する」「米帝に土地を丸ごと差し出し、再侵略を狙う日本も決して例外ではない」と主張し、日本も核攻撃の対象になることを明示。〈村山談話〉安倍首相が韓国誌『月刊朝鮮』のインタビューで、戦後50年の「村山談話」を踏まえて検討する新たな首相談話について「戦後70年になれば70年目の談話を出さなければならない」とし、2015年の発表を目指す考えを明らかに。

【3月19日】〈維新の会〉日本維新の会の国会議員団が党憲法調査会の初会合を開き、今夏の参院選までに憲法に対する基本的見解をまとめることを確認。調査会幹事長に就いた小沢鋭仁国対委員長が96条について2つの改正案を示す。（1）改憲案の発議要件を衆参の総議員の過半数の賛成に引き下げる、（2）戦争放棄や国民の権利を定めた憲法1～3章は現行を維持し、統治機構について定めた4～8章は過半数の賛成へと引き下げる。また、同会合で示された「基本的方向性」案では、「家族の価値と、それを保護すべき国の責任」の明記を求めた。

【3月20日】〈イラク戦争〉この日で対イラク戦争開戦から10年を迎える。

# 12 私も一言 (170)

花崎 晶 (八王子市民講座／八平連ほか)

「子どもたちを戦場へ送るな」というフレーズは何度も聞いてきたが、正直言ってリアルに感じたことはなかった。戦後20年で生まれた私が物心ついた頃は、過ちは二度とくり返さない、日本は戦争を「永久にこれを放棄」したものだとするなり信じて、それなりに安心して育ったものだ。

しかし、いま私が7歳の子どもを育てながら目の当たりにする政治、そして自民党の憲法改正草案はリアルに恐ろしい。国防軍をもつのはもちろん、国民の責務として「常に公益及

び公の秩序に反してはならない」といった文言が並び、「緊急事態の宣言」に至っては、戒厳令も出せるかのむちゃぶりである。子どもたちにとって危ないのは隣国の脅威などではなく、間違いなく日本の政権なのだが、選挙結果も世論調査も危機感はうかがえず、さらに怖ろしい。

考えようによっては、すでに原発事故処理は最前線の戦闘地帯に人々が送り込まれているさまであり、目に見えない脅威にさらされて暮らす福島の子どもたちは大人の政治的過ちに巻き込まれて傷つく戦時下の子ともいえる。

福島原発事故後に地域で「子どもたちの未来と自然エネルギーを考える八王子市民講座」を作り、そこから市民放射能測定室、福島の子ども保養グループ、市民発電プロジェクト、金ハデモあるいは昨年の都知事選を担った八王子勝手連などの活動が展開し、従来の平和・護憲運動と合流しつつある。誰が何のために改憲したいのか、物を知った活動家ではなく、街行くおばさんや若者に伝えることがもっと必要だ。そうでなければ政治は変わらないし米国並みにカネで子どもを本当に戦場に送られてはたまらない！

## 集会・行動情報 3/30 ~4/20

▶3/30 (土) 北アフリカ革命 もうひとつの世界への模索◆参加費500円◆高林敏之(西サハラ問題研究会)、山中達也(明治大学商学部助手)、小倉利丸(横浜でTICADを考える会)(中継予定)◆13:30◆波止場会館4階大会議室(みなとみらい線日本大通り駅下車)◆横浜でTICADを考える会

■生活保護基準引き下げはすべての子どもたちの命と育ちと学びにどう影響するの◆第1部シンポ: 小久保哲郎、青砥恭、伊藤周平、山野良一、吉岡力、尾藤廣喜、第2部ワークショップ◆13:00◆弘済会館(JR、東京メトロ丸の内線四谷駅麹町口下車)◆STOP! 生活保護引き下げアクション!

■市民外交センター30周年記念シンポジウム「日本の市民運動の30年、これからの30年」◆資料代1500円◆第1部「座談会 日本の市民運動の30年」、スピーカー: 大橋正明(国際協力NGOセンター JANIC 理事長)、上村英明(市民外交センター代表、ソーシャルジャスティス基金代表)、司会: 黒田かおり◆第2部 アドボカシーカフェ「日本の市民運動のこれからの30年」、スピーカー: 大橋正明、上村英明、黒田かおり、木村真希子(市民外交センター)。司会: 塩原良和(慶応大教授)◆13:30◆日比谷図書文化館4階スタジオプラス(小ホール)(東京メトロ霞ヶ関駅、都営地下鉄三田線内幸町駅下車)◆主催: ソーシャル・ジャスティス基金、市民外交センター 申し込み <http://socialjustice.jp/20130330.html>

▶3/31 (日) 朝鮮学校はすしにNO! すべての子どもたちに学ぶ権利を! 3・31全国集会&パレード◆開場12:00、集会スタート13:00、パレード出発15:00◆日比谷野外音楽堂(東京メトロ霞ヶ関駅、都営地下鉄三田線内幸町駅下車)◆同集会実行委員会

■伊達判決54周年記念集会「日米地位協定を問う」◆基

調講演: 池宮城紀夫弁護士「在日米軍基地被害・犯罪と日米地位協定」、首都圏反基地活動報告: 厚木基地爆音防止期成同盟、横田基地もいらない! 市民集会実行委員会◆12:30◆東京しごとセンター地下2階講堂(JR総武線・東京メトロ飯田橋駅下車)◆伊達判決を生かす会

■やってる場合か! 東京国体 日体協デモ◆15:00集合、15:30デモ出発◆宮下公園(JR・私鉄・地下鉄渋谷駅下車)◆やってる場合か! 「スポーツ祭東京」実行委員会

▶4/6 (土) ピーブルズ・プラン研究所 連続ラウンドテーブル「討論 安倍政権とは何か どう対決するか」第1回◆太田昌国「イラク戦争から10年——テレビに映らない世界を知る」◆参加費: 会員800円、一般1000円◆13:30開場◆ピーブルズ・プラン研究所会議室(東京メトロ有楽町線江戸川橋駅下車)◆ピーブルズ・プラン研究所

▶4/13 (土) さよなら原発 落合恵子さんが語る「いのち、平和、核」◆参加費1000円、学生・障がい者500円◆第1部: ドキュメンタリー映画「64歳のデモデビュー〜3・11が私を変えた」、第2部: お話・落合恵子◆13:00開場◆大阪・堺市民会館大ホール◆I LOVE 9条堺連絡会

■国連・憲法問題研究会講演会「3・11」2年 復興と除染の現実 福島・飯館村から見えるもの◆800円(会員500円)◆講師: 小澤祥司(環境ジャーナリスト、『飯館村6000人が美しい村を追われた』著者)◆18:15開場◆文京シビックセンター6回会議室C(東京メトロ後楽園駅、都営地下鉄春日駅下車)◆国連・憲法問題研究会

▶4/20 (土) アジア連帯講座公開講座「原発立地・大熊町民の今」〜木幡ますみさん(被災者)の話を聞く◆500円◆18:30◆文京シビックセンター3階会議室A(東京メトロ後楽園駅、都営地下鉄春日駅下車)◆アジア連帯講座